

【全教職員対象】 教育データに関心のある 学内研究者の皆様、研究支援職員の皆様へ



令和元年度 総務部 SD 研修 (申請中)

# オープンサイエンス研修会

近年、組織外の知識や技術を積極的に取り込むオープンイノベーションの取組みが重要視され、科学研究の進め方もオープンサイエンスが世界的な潮流となっています。『第5期科学技術基本計画』では、我が国のオープンサイエンス推進が謳われ、公的資金による研究成果の利活用を拡大することが基本姿勢として示されました。今年6月に発表された『統合イノベーション戦略2019』においても、オープンサイエンスのためのデータ基盤の整備が、Society5.0社会の実現にむけた技術の社会実装、研究開発力の強化等全てにおいて鍵とも言われています。一方で、教育のICT化をめぐっても、新時代の学びを支え、次世代の学校・教育現場の実現に向けた方策として、AIなどの技術革新とともに、教育ビッグデータの収集・活用が注目をされています。

本研修会では、オープンサイエンスに関わる政策動向について理解を深め、本学の教育オープンデータ基盤の構築にむけて必要な知識を得ることを目的に、標記の研修会を開催します。学内の研究者の皆様、研究支援職員の皆様など、教育データに関心のある多くの方々の参加をお待ちしております。

**日時** 令和元年10月30日(水) 13時30分～14時50分

**場所** ICTセンター2号館 1階 (旧 情報処理センター1階)

**講師** はやし かずひろ **林 和弘 氏** (文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター)

科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官。1995年ごろより日本化学会の英文誌の電子ジャーナル化と事業化を大学院時代のアルバイトを端緒に行う。電子投稿査読、XML出版、J-STAGEの改善、電子ジャーナル事業の確立と宣伝活動など、幅広いフェーズで実務に基づき考察と改善を加え、当該誌を世界最速クラスで発行する電子ジャーナルに整え、2005年にはオープンアクセス対応を開始し、SPARC Japanなどを通じて日本発の情報発信をより魅力的にするための活動を行い、電子ジャーナルの将来と次世代の研究者コミュニケーションのあり方についても興味を持つ。2012年より文部科学省科学技術・政策研究所において政策科学研究に取り組んでおり、科学技術予測調査に加えてオープンサイエンスのあり方と政策づくりに関する調査研究に取り組んでいる。現在、内閣府、G7科学技術大臣会合、OECDのプロジェクトにおけるオープンサイエンス専門家として活動。



## プログラム

- ◆ オープンサイエンスをめぐる国内外の動向  
林 和弘 文部科学省 NISTEP 上席研究官
- ◆ 国内各大学でのデータマネジント取組み事例  
高橋 菜奈子 本学学術情報課長(併)情報基盤課長
- ◆ ディスカッション東京学芸大学での実践に向けて

※事前申し込みは不要です。

【お問合せ】学術情報課学術企画係(内線 7229)